

2009年2月5日

高校の進路指導に関する調査

株式会社リクルート(本社:東京都千代田区 代表取締役社長 兼 CEO:柏木齊)では、高校の進路指導の現状を明らかにするため、進路指導の困難度合い、高等教育機関等への期待などについての調査を実施いたしました。この度調査結果がまとまりましたので、一部を抜粋してご報告申し上げます。

■進路指導に難しさを感じている割合、9割超

「非常に難しいと感じている」の割合が増加(→P. 3)

高校における進路指導の難しさについて「非常に難しいと感じている」(33.8%)、「やや難しいと感じている」(57.6%)と回答した学校の割合は合わせて 91.4%となり、2006年調査(90.9%)とほぼ横ばいの結果となった。しかしながら「非常に難しいと感じている」が 6.4ポイント上昇しており、進路指導がより難しくなっている状況がうかがえる。

■難しさを感じる要因には「選べない・決められない」生徒や「教員の進路指導にあてる時間不足」、「入試の多様化」が上位に挙げられた(→P. 4)

進路指導の難しさの要因として、生徒の「進路選択・決定能力の不足」(65.0%)が1位。「教員の進路指導に関する時間不足」(62.1%)、「入試の多様化」(60.8%)、「学習意欲の低下」(60.0%)が6割以上で続く。一方、2006年調査と比較して下げ幅が最も大きい項目は「学力低下」(45.3%)で、全体の9位に留まった。学力低下の問題以上に、入試の多様化や学習意欲の低下といった問題が指導を困難にしていることがうかがえる。

■進路指導における大学・短期大学等への期待は、入試の時期・種類の抑制、学部・学科のわかりやすさ(→P. 5)

大学・短期大学等に対する期待の上位は「AO入試・推薦入試の実施時期のルール化」(55.9%)、「入試の種類抑制」(39.6%)、「わかりやすい学部・学科名称」(35.4%)。複雑化する入試制度や多様化する学部・学科名称への対応に期待が寄せられている。「AO入試・推薦入試における学力測定(高大接続テスト(仮称))の実施」は 18.1%に留まる。

■進路指導で伝えることの1位は「将来のことや職業のことを考えなさい」「自分のやりたいこと・向いていることを探みなさい」が9割以上で続く(→P. 7)

「将来のことや職業のことを考えなさい」(98.8%)、「自分のやりたいこと・向いていることを探みなさい」(95.8%)の順となっており、「少しでも偏差値の高い大学に入れるよう努力すべきだ」(50.2%)、「私立よりも国公立の学校に進学した方が良い」(58.2%)を上回った。

【本件に関するお問い合わせ先】

https://www.recruit.jp/support/inquiry_press.html

【調査概要】

■調査目的

－全国の全日制高等学校で行われている進路指導の実態を明らかにする。

■調査方法

－質問紙による郵送法

■調査対象

－小社「キャリアガイダンス」を発送している全国の全日制高等学校の進路指導主事
(一部単位制を含む)

■調査期間

－2008年10月6日(月)～10月22日(水)
・10月29日(水)到着分までを入力対象とした。

～参考 2006年調査～

・調査方法・対象 2008年と同様

・調査期間 2006年10月11日～25日

・回収結果

－調査発送数 5,258

－回収数 866(回収率 16.5%)

－有効回答数 813(有効回答率 15.5%)

■回収結果

－調査発送数:5,085
－回収数:948(回収率 18.6%)
－有効回答数:910(有効回収率 17.9%)

【回答校プロフィール】

□設置者別／国公立 675校(74.2%) 私立 232校(25.5%) 不明 3校(0.3%)

□高校タイプ別／普通科単独校 487校(53.5%) 総合学科単独校(移行中含む)40校(4.4%)
普通科中心で他学科併設校 180校(19.8%) 総合学科併設校 12校(1.3%) 工業を中心とする
高校 67校(7.4%) 商業を中心とする高校 37校(4.1%) 家政を中心とする高校 4校(0.4%)
農業を中心とする高校 32校(3.5%) その他 41校(4.5%) 無回答 10校(1.1%)

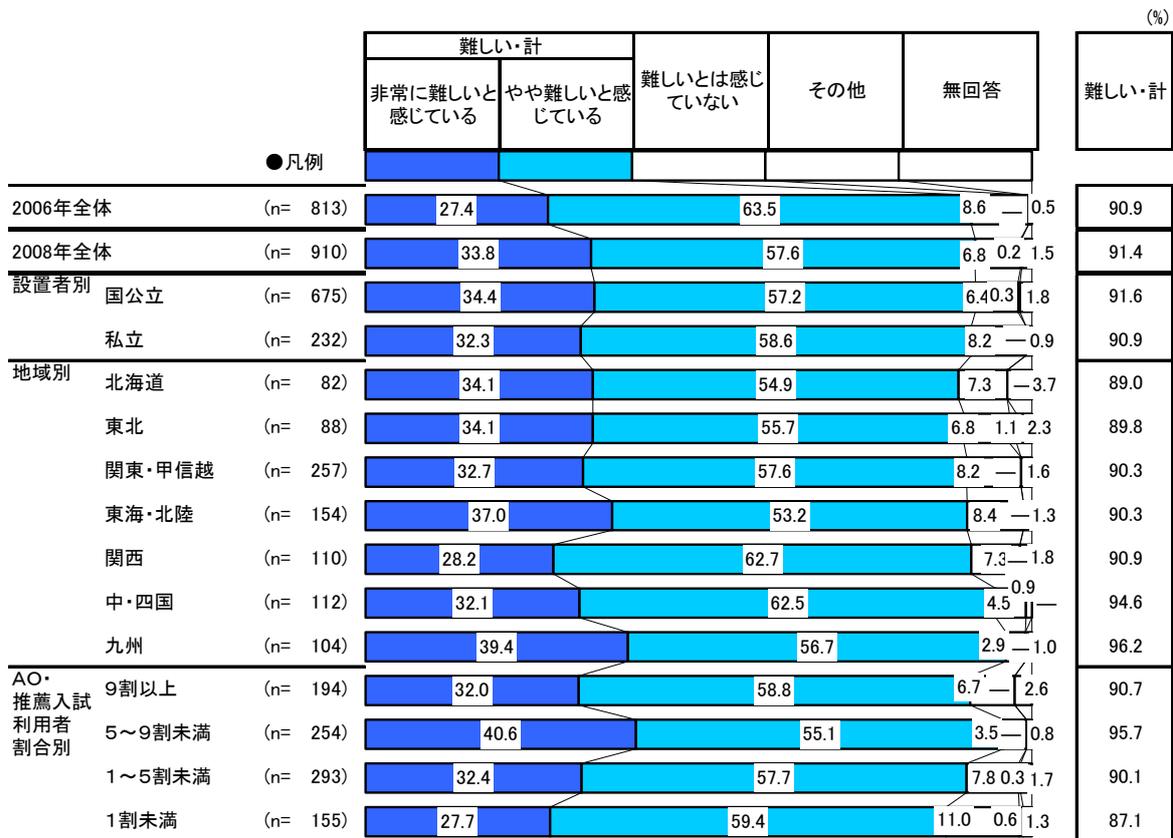
□地域区分／北海道 82校(9.0%) 東北 88校(9.7%) 関東・甲信越 257校(28.2%) 東海・北
陸 154校(16.9%) 関西 110校(12.1%) 中・四国 112校(12.3%) 九州 104校(11.4%) 不明
3校(0.3%)

□回答者平均年齢／46.9歳

【進路指導の難しさ】

進路指導に難しさを感じている割合、9割超。「非常に難しいと感じている」の割合が増加
 高校における進路指導の難しさについて「非常に難しいと感じている」(33.8%)、「やや難しいと感じている」(57.6%)と回答した学校の割合は合わせて91.4%となり、2006年調査(90.9%)と比較して横ばいの結果となった。しかしながら「非常に難しいと感じている」が6.4ポイント上昇しており、進路指導がより難しくなっている状況がうかがえる。

■現在、進路指導の難しさについてどのようにお感じですか(全体/単一回答)



【進路指導の難しさの要因】

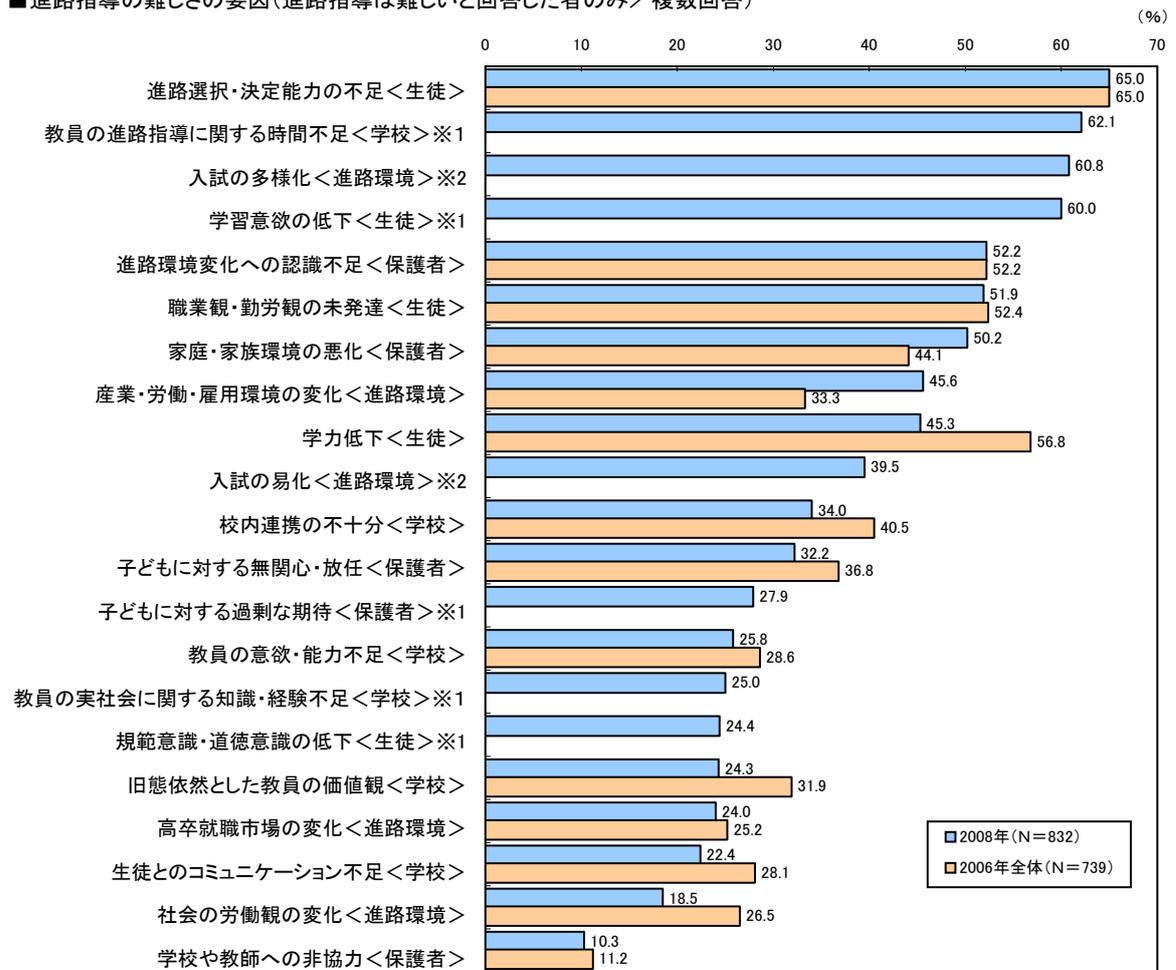
難しさの要因には「選べない・決められない」生徒や「教員の進路指導にあてる時間不足」、「入試の多様化」が上位に挙げられた

進路指導の難しさの要因として、生徒の「進路選択・決定能力の不足」(65.0%)が1位。「教員の進路指導に関する時間不足」(62.1%)、「入試の多様化」(60.8%)、「学習意欲の低下」(60.0%)が6割以上で続く。「決められない」生徒の指導や多様化する入試の指導・情報収集には時間が必要とされ、多忙化する教員の姿が浮かび上がっている。

一方、2006年調査と比較して下げ幅が最も大きい項目は「学力低下」(45.3%)で、全体の9位に留まった。学力低下の問題以上に、入試の多様化や学習意欲の低下といった問題が指導を困難にしていることがうかがえる。

上げ幅が大きい項目は「産業・労働・雇用環境の変化」(33.3%→45.6%)、「家庭・家族環境の悪化」(44.1%→50.2%)。社会情勢の変化が進路指導にも影響していることがうかがえる。

■進路指導の難しさの要因(進路指導は難しいと回答した者のみ/複数回答)



※1は初調査項目

※2「入試の多様化」「入試の易化」は、2006年調査では「入試の多様化・易化」(60.5%)

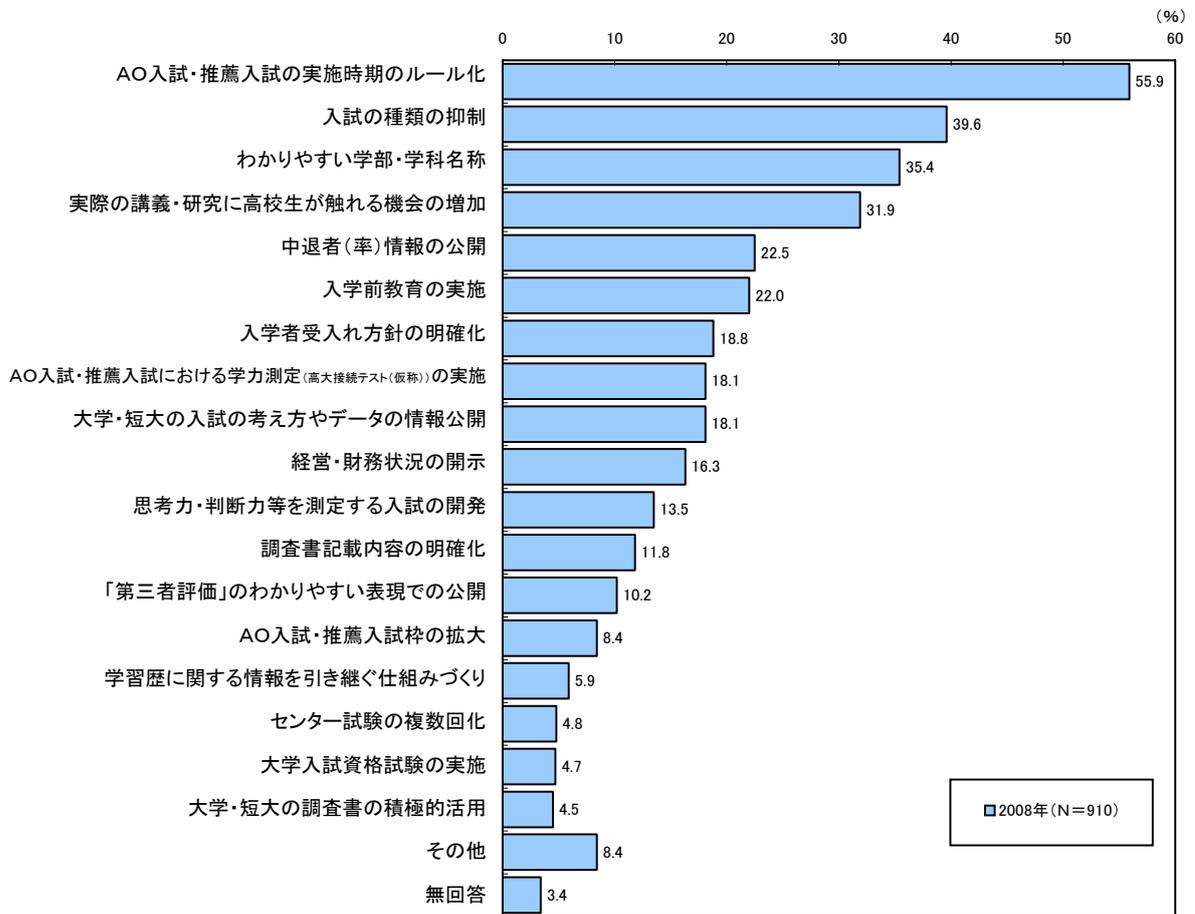
【大学等への要望】

進路指導における大学等への期待は入試の時期・種類の抑制、学部・学科のわかりやすさ

大学・短期大学および文部科学省に対する期待の上位は「AO入試・推薦入試の実施時期のルール化」(55.9%)、「入試の種類抑制」(39.6%)、「わかりやすい学部・学科名称」(35.4%)。複雑化する入試制度や多様化する学部・学科名称への対応に期待が寄せられている。

「AO入試・推薦入試における学力測定（高大接続テスト（仮称）の実施）」は18.1%に留まる。

■ 高大接続・連携の観点から、貴校が大学・短期大学および文部科学省に期待するのはどのようなことですか(全体/複数回答)

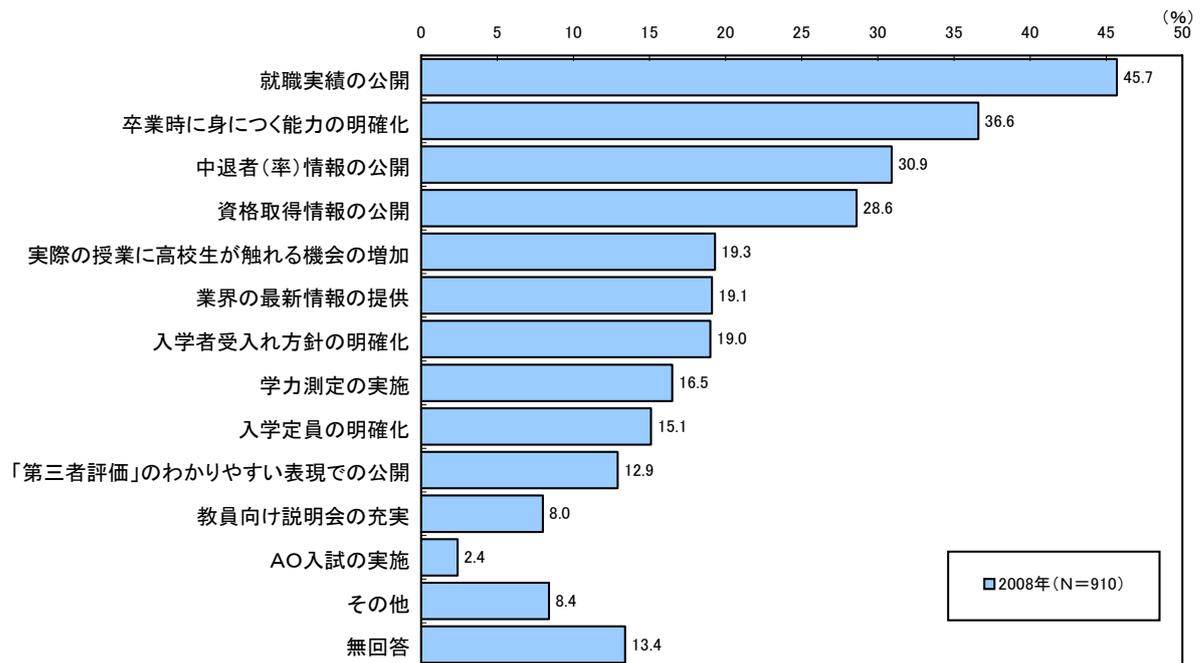


【専門学校等への要望】

専門学校等に期待することは「就職実績の公開」

専門学校および行政に期待することは「就職実績の公開」(45.7%)がトップ。以下、「卒業時に身につく能力の明確化」(36.6%)、「中退者(率)情報の公開」(30.9%)、「資格取得情報の公開」(28.6%)が3割前後で続く。

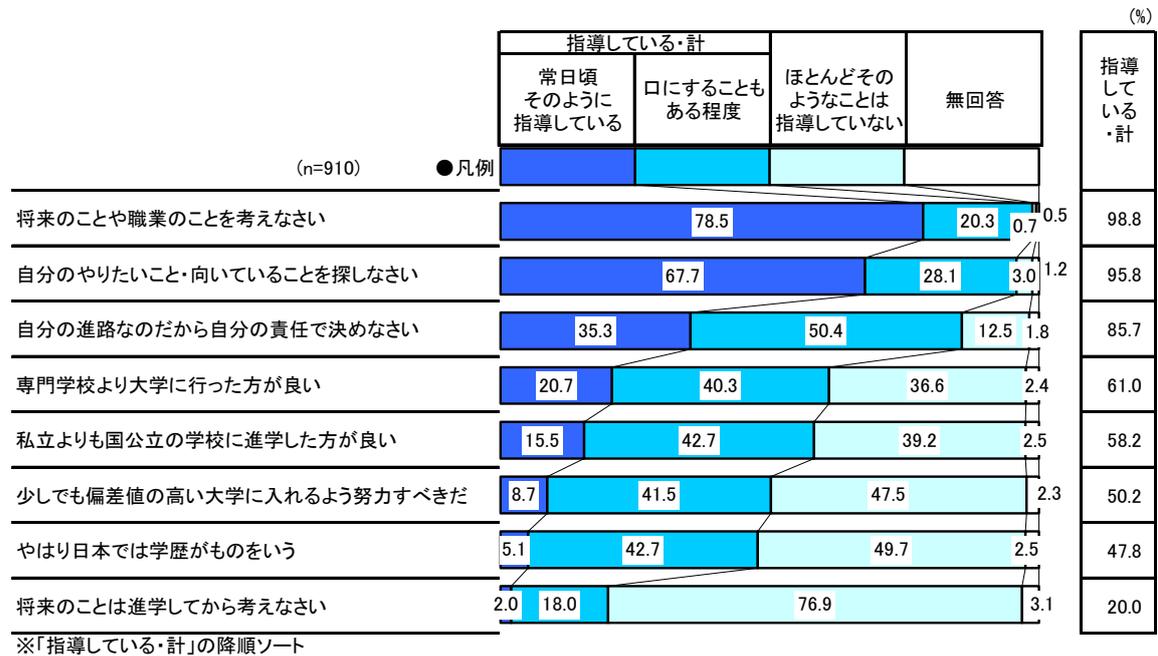
■高専接続・連携の観点から、貴校が専門学校および行政に期待するのはどのようなことですか(全体/複数回答)



【進路指導で生徒に伝えていること】

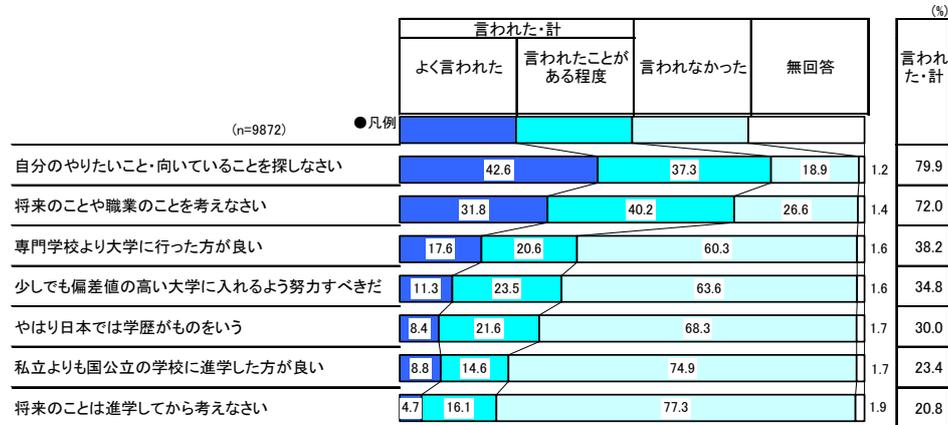
「将来のことや職業のこと」「やりたいこと・向いていること」を9割以上が指導している
 進路指導を行ううえで生徒に伝えていることは、「将来のことや職業のことを考えなさい」
 (98.8%)、「自分のやりたいこと・向いていることを探しなさい」(95.8%)の順となっ
 ており、「少しでも偏差値の高い大学に入れるよう努力すべきだ」(50.2%)、「私立よりも国
 立の学校に進学した方が良い」(58.2%)を上回った。

■先生が進路指導を行ううえで、生徒にどのようなことを伝えることが多いですか(全体/各単一回答)



＜参考＞高校生が進路指導で言われていること (弊社「進学センサス 2007」※より)

■高校の先生が進路指導では、どのようなことを言われることが多かったですか(全体/各単一回答)



※「進学センサス 2007」

当社の保有するリストから関東(埼玉、千葉、東京、神奈川)・愛知・関西(京都、大阪、兵庫)の高校生 50,000 人を対象に調査 回収数 9,872(回収率 19.7%)